

東日本大震災から 9年の月日が経過しました・・・



繊維業界は歴史が長く、また、川上から川下までサプライチェーンが長いため、立場が異なるだけで言葉づかいや慣習が異なります。「思いつきラボ」では、繊維に関するちょっとした疑問や面白話などをご紹介します。

※2020年3月15日時点の内容です。

3月11日 東日本大震災発生から9年の歳月がたちました。2011年から9年と言いつつも、ながらもまだまだ復旧 復興が充分に進められているという感覚にはなりません。

地震災害だけでなく津波災害 原発事故が重なったためで住人の帰還が困難になった

り 人口減少で街自体の存続が難しい状況に置かれた地域が多く残されています。そ

んな中でも再建に努めている方たちの活動が続けられて 少しずつ活気を取り戻して

いるところもあるという報道がこの時期には紹介されて安心する部分もありますが

今年は新型ウィルスの関係で追悼式典やら記念行事がことごとく中止になってしまいました。

公式行事やスポーツイベントなども中止で入学式や卒業式まで簡素化されている状況

からすれば止むを得ない判断だと思います。新聞のコラムに震災のときに小学1年生

の入学式ができず 義務教育最後の中学3年生の卒業式も新型ウィルスの影響ででき

なかった子ども達の記事を読んだ時にはやるせない気持ちになってしまいました。小

学生の卒業式と中学生の入学式の思い出を大切なものにしてほしいと願う気になっ

てしまいました。時刻（とき）のめぐりあわせなのですが学校生活で2度も大切な行事

を体験できないとは・・・心が痛みます。

テレビや新聞報道ではしっかりとした特集が
組まれていました。内容的には復旧 復興が
主だったところで 津波映像や原発事故現場
の当時の様子と併せての報道という印象でし



た。地震がきっかけで津波 原発事故を引き起こして重複災害となり 複合被害にな
ったことで想像を絶する事態になってしまいました。3月13日に石川県 輪島市で震
度5強の地震が発生しました。新型ウィルス拡散の上に地震災害が重なったことにな
ります。災害は単独でなく重複災害になることもあるということを再認識しておく必
要があります。

東日本大震災の被害状況

9年目のこの日までの東日本大震災の被害状況もアナウンスされていまして
ので思いつきラボでも掲載しておきます。

死者	15,899人
行方不明者	2,529人
関連死	3,739人
避難者	47,737人
※2020.3.10 データ	

やはり未曾有の災害であることが判ります。9年経過してもまだ行方不明者の数
が 2,529 人というのも残された家族にとっては災害が終わることはないという
気持ちも理解できます。津波災害 原発事故を引き起こした地震についてこの機
会に振り返っておきたいと思います。2011年3月11日 震源場所三陸沖 マグ

マグニチュード M9.0 最大震度 7 という規模の地震でした。この地震が発生してから 3月16日までの5日間で震度5弱以上の地震がなんと15回も起きているのです。最初の地震の後に大津波が押し寄せたことと原発事故に繋がったことでその後の地震の印象が薄れてしまっていますが 短期間にこれだけの大地震が続いたことも非常に珍しい現象なのです。

日付	発生時間	震源地	最大震度
2011年3月11日	14時46分	三陸沖	震度7
	15時06分	三陸沖	震度5弱
	15時15分	茨城県沖	震度6弱
	16時29分	三陸沖	震度5強
	17時41分	福島県沖	震度5強
	20時31分	岩手県沖	震度5弱
2011年3月12日	03時59分	長野県北部	震度6強
	04時32分	長野県北部	震度6弱
	05時42分	長野県北部	震度6弱
	22時15分	福島県沖	震度5弱
	23時35分	長野県北部	震度5弱
2011年3月13日	08時25分	宮城県沖	震度5弱
2011年3月14日	10時02分	茨城県沖	震度5弱
2011年3月15日	22時31分	静岡県東部	震度6強
2011年3月16日	12時52分	千葉県東方沖	震度5弱

当時は地震に関する認識をことごとく覆（くつがえ）されてしまいました。まずマグニチュード M 9.0 という規模の地震は 1900 年以降の米国地質調査所（USGS）の記録でも 4 番目の規模であること そして震源地が 200km×500km で本震が 5分にわたって 3回大きな揺れを発生させているという政府の報道発表・・・いま振り返っても信じ難い規模ですが当時現実に起こったことなのです。規模が大きいことは有り得ることとしても 震源地が 200km

× 500km というのはいままでの感覚にはないもので 震源地というよりは震源域とアナウンスすべきものと思ってしまうます。さらに連続で 3 回位置を変えて 5 分にわたった震源というのも今までの知識では考えられないものでした。

年度	マグニチュード	場所
1952年	M9.0	カムチャッカ沖
1960年	M9.5	チリ
1964年	M9.2	アメリカ アラスカ
2004年	M9.1	インドネシア スマトラ沖
2011年	M9.0	日本 三陸沖

そして紹介した本震から 5 日間(120 時間)で 15 回も震度 5 弱以上の地震が起きていて しかもその震源地が本震の三陸沖とは異なる 茨木県沖 福島県沖 岩手県沖 長野県北部 宮城県沖 静岡県東部 千葉県東方沖 となっていること。当時の報道で「長野 静岡 千葉は三陸沖の余震とは別の震源であります が 今回の東北地方太平洋沖地震（政府発表の公式名）に誘発された可能性は否定できない」とアナウンスされていきました。津波災害や原発事故災害が被害を大きくしているのは確かですが そのもとになった大地震の大きさもあらためて思い起こしていただき この規模の地震が起こる可能性があるという認識でいていただきたいと思います。これからの復旧 復興が効率よく進められることを期待しております。

お問い合わせ

一般財団法人ニッセンケン品質評価センター

防災・安全評価グループ グループ長

竹中 直（チョク）

E-mail: bosai_anzen@nissenken.or.jp